

白根コミュニティーファーム

活動報告書2011

[http:// shirane-comufarm.jimdo.com](http://shirane-comufarm.jimdo.com)



2012年7月1日

「農」をテーマに コミュニティをつくろう！



白根コミュニティファームとは…

白根コミュニティファームは、農作業を楽しむ家庭菜園グループではありません。ご近所さん同士のつながりをつくる”きっかけの畑”を共同運営しながら、ゆるりとした地域交流の場づくりを目指しています。

旬の野菜を育て、収穫物を活用したイベントを行い、みんなで楽しむのも良いのですが、ふらっと畑に来て農作業をしたり、日なたぼっこをしたり、お弁当を持ち寄ったり、井戸端会議なんかもして、毎日の暮らしの張りあいや楽しみになるような、気楽に過ごせるもっと日常的な”場”として「はたけ」を活用してもらおうのが私たちの理想です。

私たちの次なる夢は、「白根のはたけ」で培った運営ノウハウを多くの皆さんに提供し、このような小さな都市農園が、街のあちこちにできたら良いなと思っています。横浜から全国へ、コミュニティファームの輪をもっともっと広げていきたいと思っています。

※白根のはたけは、個人メンバーが任意団体として活動を行なっています。

☞ 旭区「農」のある里づくり塾

2009年1月、横浜市旭区地域振興課主催「農のある里づくり塾」に参加した区民有志の集まりが、白根コミュニティーファームの母体です。このワークショップでは、区内の農業の現状、農業生産者、消費者、行政がそれぞれの課題と目標を出し合い、企画を立て、地域資源としての「農のある里」をどうして行くのか？について討議を重ねました。

大きな方向性として「援農」と「コミュニティー」という2つの括りがありましたが、この企画が元となり区主催の農業体験、即売会などが開催され、その後定例イベントとなりました。旭区の都市農業という特色は、区民のみなさんに広く愛されているように感じます。

☞ 設立準備会と農地探し

2010年春から夏の自主勉強会を経て、具体的なコミュニティーファーム設立への方向性が出てきました。9月以降に設立メンバーが集まり、本格的に協議を重ねながら企画をまとめ、市有の宅地もしくは民有の農地を借りるべく各所に働きかけをしましたが、最後まで土地探しは難航。結論として、開墾は大変だが「農地ではなく宅地」という英断をし、メンバー親族の住宅の「庭先」がその候補地となりました。

任意団体（個人）が農地を借りるということは、農地法上の制約が多く現実的ではありません。しかし、私たちが準備会で討議した内容は、今後コミュニティーファーム活動を立ち上げる上での貴重なケーススタディとなり、地域農業の振興策として、活性化につながると確信しています。

☞ 活動経費について

コミュニティーファームの運営にかかる活動原資は、メンバー5人の年会費です。現在の農地は個人の宅地を借用しており、地主のご厚意により無償で使わせて頂いていることもあって、主な経費は種苗代、肥料代、農業資材くらいです。

2011年度の会費は、年額ひとり1万円。4月からの1年間で、支出は約3万円程度に収まっています。経費に計上はしていませんが、他に水道代、マメトラの燃料費、機械損料、農具等の経費がかかっており、現在の50～60㎡規模の場合、実質経費として最低年額5万円程度は必要ではないかと推察します。

なお土地の賃借料については、場所や面積によってかなり金額が異なると思いますので、ここでは割愛いたします。

☞ ファーム活動の現状と課題

ファームの設立趣旨でもある、畑の近隣の居住者が積極的に関わるという点では、活動を始めてまだ2年目と言うことはあるものの努力不足は否めません。いかにコミュニティーファームの活動を理解してもらい、興味を持って参加するところまで繋げられるか？町内会、自治会、幼稚園や保育園、小学校など、地域の多世代交流拠点に広報し、ファームへの理解と協力を得るような活動が必要だと思います。

白根のはたけには災害用井戸があり、大規模災害時には自主避難用地としての活用も可能です。樹木の剪定枝を使った薪、かまどの備品設置なども随時行われており、行政との協働で整備計画を立てれば、さらに有用であると考えます。

夏ばたけの主役たち

2011年度の栽培品種



ミニトマト・トマト



キュウリ



ナス



ゴーヤ



小松菜



水菜



ピーマン



枝豆 (茶豆)



落花生

冬ばたけの主役たち

2011年度の栽培品



ダイコン



春菊



カブ



エンドウ豆



空豆



はつか大根



チンゲンサイ

白根のはたけ歳時記



宅地の農地

都市農園ならではの様々な障害もあります。冬ばたけの開墾は、がれきや石との戦いでした。雑草、匂い、騒音など、近隣とどう共生していくかが課題です。



生物多様性の世界

畑には色々な生き物たちが暮らしています。チョウやトンボ、カマキリ、ミミズなど。畑作業で土を掘り返した後は、鳥たちが餌を求めて我先に下りてきます。



雪景色

今年2月の終わりに、横浜は雪が降りました。畑は一面雪に覆われましたが、空豆やエンドウ豆は雪の重みにも負けず、その後もすくすくと育ちました。



花のある風景

春のある日、畑はあたり一面が黄色く覆われていました。自生の菜の花に加え、夏ばたけの水菜やカブ、チンゲンサイの黄色い花が咲いていました。どれもアブラナ科の同じ植物です。

白根のはたけデータ

名 称： 白根コミュニティファーム

開墾年月日： 2011年4月14日

所在地： 横浜市旭区中白根2丁目（金子宅庭先）

構成メンバー：

金子 光広（コミュニティづくり担当）

村松 武男（作業指導担当・今宿コミュニティガーデン主宰）

松島 敏祐（会計担当）

坂本 欣也

水谷 功（広報・ウェブサイト担当）

※横浜市旭区地域振興課主催「農のある里づくり塾」受講生OBが中心となり結成。

